

優秀賞

中小企業区分

株式会社セリタ建設

※事業者の情報は 2017 年 11 月時点

所在地	佐賀県武雄市朝日町大字中野 10153-4
業種	建設業
社員数	30 名
受賞歴	2014 年度 優秀賞、2015 年度 優秀賞、2016 年度 奨励賞
ウェブサイト	http://www.serita.jp

創造する建設業と企業と社会の共創によって 人材育成を目指す

取組の目的

セリタ建設は、昭和44年創業より地元の総合建設業を営みながら、その地質特性である軟弱地盤の地層に着目し、早くから地盤改良工事を事業の中核として確立してきました。その主力としている事業の地盤改良工法は、二酸化炭素を多く排出するセメントを使用しています。そのことから、インフラの下支えをする基礎技術に不可欠と言いながらも、社会構造や環境から俯瞰してみると、社会では必要とされる一方で、環境への負担があるというジレンマが大きくなってきます。また、地域に根付く建設業として、地元住民との関わり合いを含め、建設業の特性のあるステークホルダーとの関係性を深め、構築していくことが非常に重要だと考えております。

このように企業と社会との関係性や距離感は、時代によって変化を起こしています。弊社が身を置く建設業においても、高度成長期の過程で公害などによって社会問題があった時代には、対立的なスタンスであったものが、徐々に受け入れるような企業スタンスに変わっていくことで、企業も利益を追求するだけの社風から、徐々に変化をしています。もちろん企業は利益を上げるために存在しますが、社会の構成員という側面も有するため、社会において評価されなければ、信用は得られません。だからこそ、公共性の高い建設業は、そういった影響を強く受けてきました。

弊社の展開している CSR 活動は、森林整備に基軸を置きながら展開しています。地盤改良のフロントランナーであることを意識して、技術開発による社会貢献だけでなく、環境に対する取り組みも重要な位置付けとして取り組んでいます。地元自治体や地域の方々を、巻き込みながら進めた CSR 活動は、年々広がりを見せています。しかし時間やコストを掛けながら活動するわけですから、利潤の追求を求める企業体質には、大きな隔たりがあり、利益を生み出し社会貢献ができる CSV(共通価値の創造)へとシフト

「環境 人づくり企業大賞 2017」受賞企業の取組事例

アップしたアロマオイル「MORIRECO」は“柏岳 森と風のプロジェクト”の整備活動で生じる間伐材等で製造し、マンネリ化した活動には、大きなモチベーションアップになり現在も継続しています。

少しずつではありますが、森林整備の活動を進めていくことで、社会全体の課題も見えてきます。例えば、森林整備のボランティアでよくあるケースとして、業績に比例して活動は活発になり、そうでなければ活動も低下し、停止まで進んでしまいます。結果の出難い環境という特性と、CSR 活動自体、義務でもなければ、責任を負っている訳でもないのに、鈍化してしまう要因を多く含んでいました。

そこで、社員・地域の方々が環境保全に共感できる“柏岳 森と風のプロジェクト”が設立し、地域住民の方々、地方自治体の方々とともに森林保全活動を行ってきました。単独企業だけでは、経済合理性によって陥りがちな環境活動の鈍化を防ぎながら、地域交流や地域連携をより密接にすることができると考えたからです。現在は地域住民の方々の積極的な参加になって活動を進めています。共に活動し社員と地域の方々のコミュニケーションをはかることで、社員の保守的な考えを見つめ直すきっかけが、社員の成長となることとなり、地域や地方自治体までもコミュニケーションの輪が広がっていきます。

我々の進めた森林整備を中心とした CSR 活動は、企業と社会を結ぶきっかけとなり、より密接な関係を構築していくことで、地域社会にとって、共創していくような新しいモデルを構築していきたいと思っております。

取組の実績

◆ 個人の環境力の向上

環境活動に取り組む中で、環境意識と各々の知識の向上を目指すため、7月実施の eco 検定に社内の部署を問わず 10 名が挑戦しました。今回より始まった「eco-MASTER グランプリ」という 3 人 1 組の合計点数をもとに参加チームの順位を決めるチーム戦にも登録すると同時に、eco 検定の社内プロジェクトを立ち上げリーダーを筆頭に、エコピープル(eco 検定合格者)を目指して、各々が声を掛け合い受験に向けて取り組みました。

● eco 検定受験について

エコ通信
H29.6.30 総務部

「持続可能な社会」をわたしたちの手で
eco検定 7月試験を受験します!!

お疲れさまです。
7月23日(日)に実施されます、「eco検定」に社内10名が挑戦します。
また今回受験より実施される3人1組のチームで合計得点を競うグランプリにも応募しています。
合格を目指し、一丸となってがんばります。

チームセリタA	リーダー
チームセリタB	ECO-MASTER GRAND PRIX 2017
チームセリタC	三人一組で頂上を目指せ!!!

「環境 人づくり企業大賞 2017」受賞企業の取組事例

また、経営者として「認定 NPO 法人 環境文明 21」「日刊工業新聞」主催の「経営者「環境力」大賞」に弊社専務が応募しました。これは、「環境」を経営に生かす中堅中小企業のユニークな経営者を発掘し、その活動を広く社会へ発信することを目的として 2008 年に創設された顕彰制度です。今回初の応募となりました。

◆ エコアクション 21 の環境活動の継続

電気・化石燃料・水道・ガソリン・軽油・一般廃棄物の削減、グリーン購入など、日々の取り組みとしてエコアクション 21 の環境活動推進を継続しています。身近で出来ることとして、昼休みの事務所内消灯、水道蛇口へのシャワーヘッドの取り付け、ペットボトル等資源の産業廃棄物処理場へ持参など全社員の再利用化への取組が日常となりつつあります。

◆ 柏岳 森と風のプロジェクト

今年度で 4 年目の CSR 活動となります。継続的で、本事業の合間で活動を行っていますが、今回は地域の方々や訪れた方々が遊歩道からの景観を親しみや森林に踏み入れやすくなるように、遊歩道内の間伐・択伐を重点的に行いました。間伐した樹木や枝葉はその場でチップ化し、CO₂ が排出されないようにそのまま堆肥化させています。



◆ 森の香りとアロマオイル・アロマミスト

CSR から CSV としてシフトアップし、森林保全活動で出た間伐材を利用したアロマオイル「MORIRECO」の商品販売を継続しています。今年度もギフトセット・オイル単体・アロマミストの 3 商品を、会社事務所内と主旨を理解していただく武雄市内の販売店、自治体特選ストア(GTS)にて、計 50 個販売させていただきました。県内問わず県外の方々からも商品をお求め頂き、手にとっていただくことができました。

◆ 緑のカーテンとクールビズ

夏の暑さ軽減として、会社南側にゴーヤの苗を植栽し、夏場に緑のカーテンを社員で作製しました。頑丈なパイプ組み立てとネットの取り付けは工事部にて設置し、苗の植栽、日々の水やりは担当を分担して行いました。今年の夏も猛暑が続きましたが、植栽したゴーヤは陽を遮断するカーテンとなり、夏のクールビズ宣言事務所として 28℃設定を保つ一因として、また夏バテ防止食材として役割を果たしました。

◆ 環境配慮型工法

スギやヒノキの樹皮を特殊加工して土と混合させた自然素材のリサイクル環境保全型工法「S-RC クレーグランド工法」を使用し、今年の春に県内の公園の遊歩道を一部施工しました。弊社の技術である「マ

「環境 人づくり企業大賞 2017」受賞企業の取組事例

「ドミキサー工法」で攪拌を行った樹皮と土の混合土を使用して施工した後の土壌は、防草性・抗菌性・排水性があり、クッション性も高くスポーツ環境にも最適です。

成果・課題

◆ 個人の環境力の向上

7月に実施されたeco検定・eco-MASTERグランプリのチーム戦への挑戦は、厳しい結果となりましたが、今回新たに5名のエコピープルが誕生しました。これまでは2名のエコピープルを先頭に、個々人それぞれが活動に取り組んでいましたが、環境意識もそれぞれで、受動的な環境活動やCSR活動になっていたようです。ただ、今回の検定受験をきっかけに、しっかりと環境について知り、どうして今環境活動が必要なのか、そして現在の地球の環境状況と世界の抱える環境問題、今私達に出来ることはどういふことなのか等、様々な視点より環境を知ることができたようです。社内で行き組む環境活動や活動目的についての理解にもつながり、これまでの受動的な取り組み方とは違い、能動的に行き組むことができるようになりました。

また、経営者として「経営者「環境力」大賞」に弊社専務が応募し、8名の受賞者の1人となりました。「会社の基軸となる経営理念を明確にし、経営戦略・戦術を立て、環境力を意識的に取り入れた経営改革に行き組んでいる」点が評価されての受賞です。

これらは、個人の環境力の向上だけでなく、これから社内外で環境活動に行き組む上で活動意欲の向上になります。これからも社員それぞれが向上していくことを目指していきます。

◆ エコアクション21の環境活動の継続

環境活動の現状把握として、目標の社内掲示と環境活動レポートを自由に確認できるよう情報を共有化し、日々の活動に行き組んでいます。現状の環境活動継続をしつつ、社員同士で更なる環境負荷低減の為にどう行動すべきかを再度検討をする中で、化石燃料が売上に左右されてしまい、目標が達成できない場合が出てきました。そのため売上に左右されない指標を立てるべく、今年度より4点の自社独自の環境KPI(環境教育の実施/施工面積当りの燃料消費率/施工面積当りの施工人員/環境配慮型工法の提供)の設定を行い、環境活動に行き組んでいます。化石燃料のように達成が難しい項目に関しては自社環境KPIの指標も確認しつつ、各月の使用状況掲示や社内での競争等工夫しながら、環境意識の継続を図っていきます。

◆ 柏岳 森と風のプロジェクト

柏岳は様々な景色を見せてくれると同時に、私達と地元の方々を繋ぐふれ合いの場所となっています。今年度は前半に環境整備活動を行っていたのですが、8月に登山道斜面崩壊で全面通行止めとなってしまいましたが、そのことが地元の方々とコミュニケーションをとるきっかけにもなりました。“登山道の復旧はいつになるの”、“今回このようなことになったが、これからも環境活動を続けたい”など地元の方々のお話を聞くこともでき、今まで以上に地元の方々とコミュニケーションが増すこととなりました。

「環境 人づくり企業大賞 2017」受賞企業の取組事例

◆ 森の香りとアロマオイル・アロマミスト

遠くは関東地方から県内、そしてリピーターとしてお求め頂くお客様もいらっしゃることで、「MORIRECO」商品は社員の環境活動のモチベーションアップになります。商品を知って頂き、縁あって手に取って頂いたエンドユーザーの皆様、森の香りで癒しと安らぎを、そして環境について考えるきっかけとなればと、社員共々気持ちを込めて梱包しています。また地元の販売店と私たちを繋ぐ商品であり、商品納品時には環境や地域の事など直接顔を合わせてコミュニケーションをとることができ、さまざまな考えを学ぶことができます。

◆ 緑のカーテンとクールビズ

ゴーヤの設置に当たり、設置環境作りから苗の植栽、そして日々の成長を見ることで、身近な野菜から環境活動に取り組む意識作りのきっかけが出来ました。設置場所は、会社事務所の日当たりのよい窓側で、手を伸ばせば届く位置にあり、毎日成長を確認出来ると同時に、収穫等含め、社員全員で取り組み、社員同士のコミュニケーションツールともなりました。

◆ 環境配慮型工法

環境配慮型工法「S・RC クレーグランド工法」は、スギやヒノキの自然素材を、弊社の技術である「マッドミキサー工法」にて攪拌し使用することでクッション性も生まれ環境にとっても、人にとってもやさしい工法です。今回は公園の遊歩道でしたので、子どもから高齢者まで快適に、足腰の負担が軽減されるような土壌を目指しました。現場の施工も環境性・クッション性に満足できる歩道ができ、意気も上がりました。今後も今まで以上にこの工法を知って頂き、興味を持って頂けるよう、営業活動と広報に力を入れていきたいと思えます。

今後の改善

地元の方との環境保全活動では幅広いコミュニケーションをとることができました。地元のこと、建設業の事、他業種の事、市制の事、環境の事などジャンルも多岐にわたります。建設業の事は社員も幅広く話すことはできましたが、環境の事となると社員一人一人のコミュニケーション能力に違いがあるのがわかってきました。エコに関する知識の差であり、それに伴う意識の差です。本年度は商工会議所主催の eco 検定の合格率は 50%でしたが、eco 検定合格者は会社全体で当初の 6%から 23%と 4 倍近くまで伸びる事が出来ました。しかし従業員全員が資格取得を目指したわけではありません。受験した社員数は全体の 30%にしか満たず、徐々にコミュニケーションに差異が生じ始め、有する知識・価値観が違うため、自発的行動においても様々な形をとり始めました。知識を有する人同士のコミュニケーションと知識が薄い人同士のコミュニケーションへと形をかえ、それぞれのコミュニケーションが薄くなり始めたのです。新聞で興味ある環境問題を読む人、興味がないので読まない人など偏り始めました。全社員の環境に対する知識の向上が必要になってくると思えます。

「環境 人づくり企業大賞 2017」受賞企業の取組事例

そこで eco 検定をきっかけに環境教育を育てていき、自発的な活動、他者とのコミュニケーションへと繋がりたいと考えます。検定合格も大事ですが、eco 検定合格を目指す過程が大事であり、環境に興味を持ち、現在の環境活動について振り返ること、そして知識が社員各人の財産となり、コミュニケーションの差異を解消することができるのではないのでしょうか。合格した社員もその場限りでなく継続的な学習を行うことが解決へとつながります。

このような eco 検定による知識や社員同士のコミュニケーションが次の CSV の開発へのアイデアとして繋がっていくのではないのでしょうか。

現在、継続的に行っている“アロマオイル事業”CSV も社員同士のコミュニケーション、アイデアだけでなく、地域との共同開発を行い、企業と地域が一体となった CSV の開発を目指すことで今まで以上の連帯感が生まれ、環境保全のための商品づくりで今まで以上の活性化を行っていきたいと思います。CSV も地域と一体となれば地域産業の一端として、今まで以上に地域全体へのコミュニケーションのきっかけとなり、社員、地域の方々の意識、気持ちが各人への人づくりへと結び付いていくと考えます。

審査委員会からの講評

CSR 活動の中で「柏岳森と風のプロジェクト」を市と森林づくりの覚書を締結し、柏岳の遊歩道整備を行っている。地域住民と交流することで社員の社会的課題への意識を高め、成長につなげている。

eco検定の新しい取組みである「eco-MASTERグランプリ」(3名1チームで合計得点を競う)に対し、早速、同社から3チームが応募しており、新規の取組にも積極的に取り組んでいる。社員間で環境意識の差があることを把握し、全社員の知識向上を計画している。社員の環境意識・知識の向上を通じて、CSVの実現のため環境配慮製品を開発するという経営戦略上の位置づけも明快である。

過去にも本表彰を複数回受賞している企業であるが、これまでの実績を踏まえながら、毎回取組が進化しており、継続的に改善を図っている点を高く評価したい。